

条幅部自由参考

4月25日正午必着

明石春浦先生書

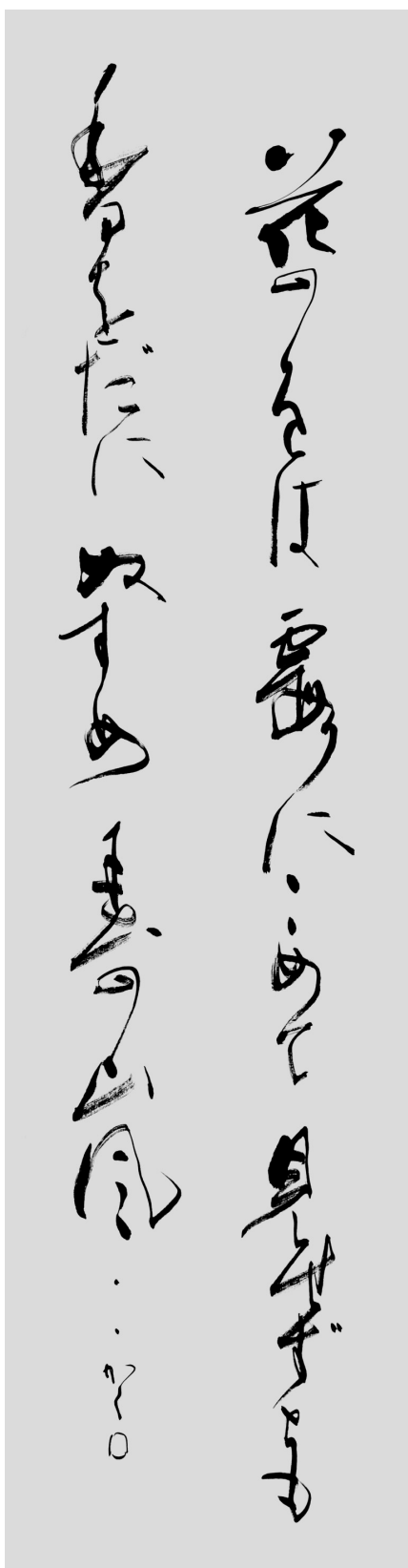


玩物喪志
がんぶつはこころざしをうしなう

(書經)

物をもてあそべば心が專一になることを得ない。

明石幸子書



花の色は霞にこめて見せずとも香をだにぬすめ春の山風(遍昭)

花明柳暗丹青國
日暮雲濃水墨天

花明柳暗丹青國

日暮雲濃水墨天

彩色畫と水墨畫

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

徳如^レ海壽似^レ山（申間時）

徳は海^の如く^{ごと}寿は山^に似たり

めでたいことばである。

讀書生^ニ午倦^一一枕曲肱斜^レ
忘^ニ却將^レ窗掩^一渾身是落花

（袁枚）

讀書^を生^を午倦^を生じ一枕^を曲^をけて斜^{なり}
窓^を將^は掩^うを忘^却し渾身^は是^れ落花^{となりぬ}

書物を読んでいるうちにあきが来て、手枕で昼寝をきめこんだが、うっかり窓をしめるのを忘れたので、目がさめたら満身落花の姿となっていた。

漢陽卽事

（儲光羲）

楚國千里遠 孰知^ニ方寸違^一

楚^を國千里遠^し孰^もか方寸^の違^うことを知らん

春遊歡^レ有^レ客 夕寢賦^レ無^レ衣

春遊^を客有^るを飲^び夕寢^に衣^も無^きを賦^す

江水帶^レ冰綠 桃花隨^レ雨飛

江水^に氷を帯^びて緑^に桃花^に雨^に隨^って飛^ぶ

九歌有^ニ深意^一 捐^レ珮乃言歸

九歌^に深意^{あり}珮^を捐^て乃^ち言^ふに歸^{らん}

ともしびのまおもに立^たてる紅^{くれなゐ}の牡丹^{ぼたん}の花^{はな}に雨^{あめ}かかる見^みゆ

（伊藤左千夫）

半紙部規定課題A

4月25日正午必着

奏 山
響 烟
音 周
金

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

4月25日正午必着

行書

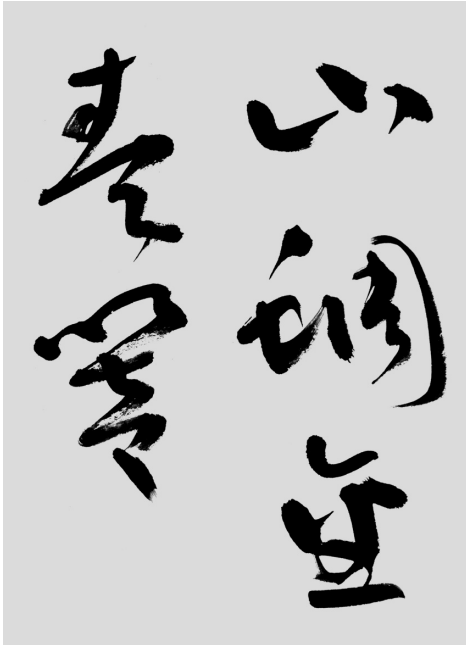


隸書



明石春浦先生書

草書



行草書



池中の島はすがすがしい木陰におおわれ 遊興の船をうかべる人もない
 山中の蟬は鐘をうちならすかのように啼き 花におく露は水晶のようにまるい
 静の極みの中に、朝夕をすごし 奥深く観照すれば、すでに玄妙に達する
 故郷もちょうどこのようであらうものを どうして帰田の賦を吟じないのであろうか

林館避暑

羊士諤

池島 清陰裏

無人 泛酒船

山 蜩 金 奏 響

花 露 水 精 圓

静 勝 朝 還 暮

幽 觀 白 已 玄

家 山 正 如 此

何 不 賦 歸 田

林館に暑を避く

羊士諤

池島 清陰の裏

人の酒船を泛ぶもの無し

山 蜩 金 奏 響

花 露 水 精 圓 かなり

静 勝 朝 還 暮

幽 觀 白 已 玄

家 山 正 に 此 の 如 し

何ぞ帰田を賦せざる

(出典)

朝日新聞社刊

「三体詩」下より

4月25日正午必着



孝廉

西 墨濤先生臨書

祖父鳳。孝廉。張掖屬國都尉丞。右扶風陰櫟侯相。金城西部都尉。北地大守。父瑋。少貫名州郡。



後漢・曹全碑……(一八五)

秦の始皇帝によって統一された篆書(小篆)は繁雑化していく事務処理にはしだいに用をなさなくなり、字画を簡略化し、直線的にした隸書と呼ばれる文字が多く使用されるようになった。この初期の隸書を古隸といい、漢代になると一般通行体として定着していった。一方、公用体としての小篆もすっかり姿を消し、替わって八分と呼ばれる隸書が広く行われるようになった。八分は八の字を書くように互いに相背した筆勢を示し、古隸に連筆のリズムを持たせたものである。殊に収筆部分の波のようなはね上げ(波磔)に特徴があり、古隸には見られない装飾性が加わっている。

後漢になると八分隸はますます洗練され、漢碑の流行と共に完成の域に達したとされている。その八分隸の代表的なものとして礼器碑と並び称せられるのがこの曹全碑である。

曹全碑は陝西省郿陽県令であった曹全が動乱を鎮めたことに対し、その功績を讃えた頌徳碑である。長く美しい波磔とよどみなく清らかに澄んだ筆勢は流麗さを感じさせ、結体も見事なまでの整齊さをなしている。この碑を習う際には、水平で扁平な字形、用筆における鋒先を巻きこんで打ちこむ起筆と一字中の一画だけに見られる波磔等が重要なポイントとなる。

漢王朝の末期を飾ると言われる曹全碑の美しさの中にある筆力の強さを意識した運筆を心掛けたい。

(春濤)

翻手作雲覆手雨
君不見管鮑貧時交

紛紛輕薄何須數
此道今人棄如土

(杜甫)

手を翻^{ひる}えせば雲と作り手を覆^{くつ}えせば雨 紛々輕薄何ぞ数^もうるを須^{もち}いん
君見^みずや管鮑貧時の交わり この道は今の人棄てて土のごとし

交何翻
此須手
道數仁
今君雲
人不履
棄見手
如管雨
土鮑紛
貧輕
時薄

做書全碑
書

△做書參考▽

※この釈文での臨書部門の出品は出来ません。

城尉祖
西丞父
部右鳳
都扶孝
尉風廉
北除張
地棄扶
大侯屬
相國
金都

漢書全碑
鄭曉

4月25日正午必着

教育部毛筆

保健

ほ
保

けん
健

中学一年

雨宮春聲先生書

敏速

びん
敏

そく
速

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



榎戸春龍先生書

ず
図

が
画

小学五年



藤井良泰先生書

じ
時

かん
間

小学六年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

4月25日正午必着



藤田幸春先生書

しゅ
主

じん
人

小学三年



細谷春誠先生書

し
司

かい
会

小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

く つ 小学一年・幼年



森戸春濤書

ダ ム 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

4月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

テストの採点の結
果が待ちどおしい

小学五年

森林のおくにある泉
の水は大変おいしい

小学六年

歴史は古いといえど
も常に新たである

中学

桜の花びらもふるえる
寒さに見舞われた

一般(級位)

見渡せば柳桜をこきまぜ
て都ぞ去の錦なりける

一般(段位)

見渡せば 柳桜をこきまぜて 都ぞ春の 錦なりける (素性)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

した	ろかい
いい	
く	や
も	ま

幼年

んわ	二た
くし	みは
で	す
一	ね

小学一年

目ま	にえ
すか	わら
つ	四
た	ば
	ん

小学二年

ド	下
を	り
ゆ	坂
る	は
め	ス
よ	ピ
う	ー

小学三年

な	花
が	び
ら	ら
池	が
に	風
お	に
ち	ま
た	い

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

いよの、ふら乃
 像のまね
 木のぬれには
 こゝだもさわぐ鳥の聲かも



岩本景楓先生書

三 みよしの、象山さきやまの際まの木ぬれこにはこゝだもさわぐ鳥うの聲こゑかも（山部赤人）

※木ぬれ：梢